



日本サー モニクス
相模原市中央区

真心溢れた対応と技術力

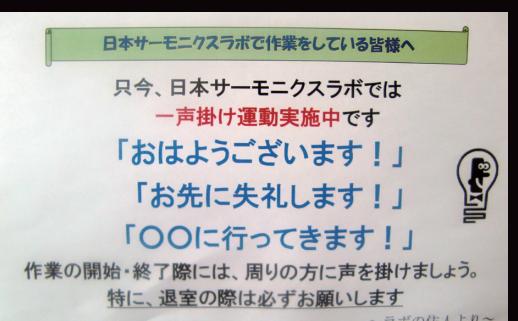
高周波誘導加熱技術と創業

IH を利用した誘導加熱技術は今、ガスに代わる調理器具や炊飯器によって、家庭でも身近な存在となった。その誘導加熱技術を高周波で活用して、さまざまな要望にあわせて加熱処理する産業用機械装置を開発・製造する会社が日本サー モニクスである。1973年、上場企業から独立し、現会長を初代社長として12名のメンバーで日本サー モニクスを設立した。設立から今日までの道は決して楽なものではなく、さまざまな困難に見舞われた。ダイレクトメールを800社に送っても返事はなく、営業マンが会社を訪ねていっても装置が売れるることはなかった。「モノをつくれば売れる」。そんな期待はオイルショックの影響によって、いつも簡単に崩れた。想像以上に日本の市場は厳しい状況にあったのだ。しかしながら苦難を乗り越えた結果、現在の日本サー モニクスがある。

高周波誘導加熱（高周波焼入）とは、熱処理手法のひとつだ。コイルに交流電流を流すとコイルの周りに磁束が発生する。その磁束の近くに金属を置くと金属の表面にうず電流が流れ加熱される。それを急冷することにより表面が硬くて内部に粘り強さのある金属ができる。つまり、折れにくくて硬い金属をつくることができる。同社が開発した高周波誘導加熱装置は主に、自動車部品の強化に使用され、海外の日系企業などと取引をしている。

顧客ニーズに応える技術力

「真心を持って顧客ニーズに応えることが重要である」。宮崎英典会長はそうつぶやいた。受注生産が主体の同社は、高周波誘導加熱装置の設計から開発、製造、販売、その後のフォローまでも手掛ける。設計、開発では顧客のニーズに合わせて一つひとつの部品をつくりこんでいる。例えば、ある注文に対して、まず、その装置に機能に見合ったコイルの設計から始める。このような取り組みを一から行える技術力は並大抵なものではなく、今まで積み上げてきた知識と経験があるからこそ成り立つ。受注生産が行えるのは、大手企業に負けないだけの技術力とノウハウを持っているからだ。「顧客ニーズに応えることでは他には決して負けない自信がある」。宮崎会長はうれしそうに語った。



笑顔輝く職場

会社の横に、緑の外装の建物が立ち構えている。それが開発拠点である「ラボ」で、08年9月に開設した。

私たちはそこの入り口であるものに目を奪われた。それが「只今、日本サー モニクスラボでは一声掛け運動実施中です」の文字だった。

「おはようございます！」「お先に失礼します！」「〇〇に行ってきます！」

この一声掛け運動は意思伝達をしっかりとさせること、それによって作業を円滑に進めることを目的にしている。意思伝達をしっかりと行うことで、お互いに考えていることが分かり合い、コミュニケーションがきちんととれる。そのためか、仕事にムダがなく集中できる雰囲気が職場には漂っていた。また、開発と技術など、部門が異なりあまり関わりを持たない社員同士が交流できる場を設け、さまざまな社内行事を実施している。こういったコミュニケーションのとれた、活き活きとした社内の雰囲気を創り出すことで、社員の前向きな姿勢を引きだし、一人ひとりが円滑に作業を行うことが可能となる。それは、顧客のニーズに対応するためのベースになっているのである。

これからに向けて

ラボを建設した目的は大きく二つある。一つは、受注生産の減少と技術革新への危機感が生まれたことだ。最近は電気自動車（EV）など従来の車と比べて電気で動く自動車が増えている。特にEVが増え続けると、自動車のエンジンなどが必要なくなり、金属を硬化するニーズが減ってしまう。それに対応するための技術の導入、製品開発の体制を整える必要があった。

もうひとつは顧客のニーズに対応するための新製品開発や試作を行うためだ。顧客の目線に立ちニーズに応えることは、顧客との信頼関係を構築し、顧客の喜ぶモノを先取りすることで、将来の新たな展開につなげることができる。この試みが将来の可能性を広げる第一歩となる。

これからの目標として宮崎会長は「自動車以外の産業に市場を開拓する」ことを掲げた。「時代の流れに沿って、顧客ニーズは変化していく。その変化についていくために、新しいことにチャレンジしていかたい」と熱く語る。

また、次世代を担う若者たちに「新しい事にチャレンジしていく精神と、仲間と協力する精神を持ってほしい」とエールを送ってくれた。

顧客ニーズに応えるため、日本サー モニクスの新たなチャレンジが今日もまた始まる。

日本サー モニクス株式会社

所在地	相模原市中央区田名塩田1-1 3-6
代表者	代表取締役会長 宮崎 英典
	代表取締役社長 石川 秀實
資本金	3,650万円 創業 昭和48年
従業員数	44名 誘導加熱技術を利用した高周波誘導加熱応用装置の製造販売
事業内容	自動化・省力化機器の製造販売
電話（代表）	042-777-3411
ホームページ	http://www.thermonics.co.jp/

担当 長富 咲子